

## 第 78 回九州山口薬学大会報告

2017 年 9 月 24 日

長尾康司

今回の学会で特に興味を持ったのは、これからの医療制度・業界動向、健康サポート薬局について他社の取り組み、新技術についてである。

医療制度・業界動向について、シンポジウム [医療制度改革] の S1-3,S1-4 において ICT 化の問題点として、ID とパスワードのみの接続環境下で、タブレット端末等を使用し、患者様の個人データを、不特定多数の人間が見られる可能性のある、ネット環境に保管するのは問題があるのではないかという点が挙げられていた。長崎県では県の薬剤師会の取り組みで独自の VPN を運用しているとのことである。将来的には国の補助等で必要な通信費を無料化してほしいという意見があったが、当面は各個人、自治体で情報セキュリティ管理を行うことになるとのことであった。

健康サポート薬局について、P-B-20、P-B-21 で健康サポート薬局対応に際し、薬局にどのような機能があればよいかというアンケートの結果があり、60 代の患者 28 人のうち 8 人が食事指導を挙げていた。食事指導を行うにあたり必要なことは、服用薬、既往歴、検査値、食生活を含む生活習慣の把握が必要である。このポスターの事例から、患者様のニーズを満たすためには、薬歴以外に個人のデータベースの保持が必要となるのではないかと感じた。それに関連して、P-B-10 では離島の住人に対し、自費で以下の検査値の測定が受け入れられていた。ヘモグロビン、HbA1c、総-CHO、LDL-CHO、HDL-CHO、中性脂肪、血糖値、すべての項目測定で 2500 円程度であった。薬物治療まで必要としないが、健康診断の検査結果が気になる方にとって、これらの測定値は有益な情報となる。日常的な健康管理の指標として、生活習慣改善に用いることで、生活習慣病の発症を予防し、薬剤費の削減につながると思った。検体測定については、法律、設備、情報管理等、どのような業務が発生するか詳しく調べる必要があると感じた。

新技術として、学生パネルディスカッション [AI (人工知能) と歩む薬学の進展と夢] 基調講演において、AI について現在は明確な定義は無いものの、今回の説明では、機械学習を利用したシステムの構築については、高度な技術と多額のライセンス料が必要であるため、IT 企業の開発を待つことになるが、AI に情報を読み込ませる前工程の、テキストマイニング、データマイニングを行うことは、手間はかかるが誰でも行えるとのことであった。さらに、この 2、3 年後には活用されている AI システムの紹介があった。主に AI が得意とする大量データの処理、24 時間活動可能であることを利用したシステムであった。その他に新薬開発なども挙げられていた。AI については、現在、情報過渡期であり、過度な期待は禁物であるが、利用できる場所は利用すればよいとの意見であった。

今回の学会にて、様々な情報を得ることが出来た。中でも、患者様から得られた情報をどう活用し、患者様にとって価値のある情報をどれだけ提供出来るかが重要であると改め

て感じた。今回、健康サポート薬局対応について、他の薬局がポスター発表されていた事例は、その薬局に来局する少数の限られた方へのアンケート結果であり、その情報が自分達のケースに当てはまるかは分からない。事業所単位で調査を行うよりも、全国民に対するアンケート、例として国政調査の中に、薬局に求める項目等のアンケートを織り込み、それを解析することで、より明確な国民のニーズを把握出来るのではないかと感じた。